



Newsletter No.139 2017.2.27

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



3月といえば、ひな雛祭り！そして、木々や花々が芽を出し、春本番の準備を始めます。ポーポキはたくさんの芽や小花を発見します。あなたもお花と素敵な出会いがありますように！

Popoki's Hot News!



NEW! ポーポキ友情物語 in 大槌町報告会
4月7日 19:00～ 会場:神戸学生青年会館
参加費:無料 本号12ページをご参照



ポーポキのミニ平和映画祭
時:5月13日 14:00～16:00 場所:神戸 YMCA
新しくオープンする会場も見学できます！
参加費:無料 詳しくは本号11ページへ。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちの**プトリにゃん**は、次の「一言の平和」を送ってくれました。

「時々、私は多くの人々に好かれる人や、誰とでも付き合いができる人、面白くてカリスマが強い人たちに嫉妬を感じます。私は自分自身を見ると、その人たちとは逆さまで。私は非友好的に見え、そして傷つけるつもりはないのに私の言葉が正直で直接的すぎます。そういうわけで、私は間違いを繰り返すことを恐れ、私は自分自身を孤独の中でカバーしていました。しかし、私がもう一度振り返ってみると、私の特異性を気にしていない、心から受け入れてくれるほんの数人の

友人がいることに非常に感謝しています。彼らが私の冗談を笑って、私に心を開き、私が落ち込んでいるときにいつも私を支えてくれるので、私は平和に感じます。私はこの友情と平和のこの気持ちを永遠に保ちたい。私は彼らが同じように感じることを願っています。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

ポーポキ友情物語 IN 大槌 2017.2.3-5 その2

大槌レポート

文：レイザニャン 和訳：やこにゃん

2月3日に、ポーポキは岩手県の大槌町にいる私たちの仲間たちを訪問しました。大槌町は、2011年3月11日にマグニチュード9.0の地震と津波によって壊滅的な被害を受けた町です。ポーポキを代表してこのプログラムに参加したのは、ろにゃん、さとにゃん、スイウィニャン、プトリニャン、やこにゃん、およびレイザニャンです。以下は、私達の大槌での体験の要約です。

2017年2月3日

ポーポキ一行がおおよそ10時間の東京発のバス旅を経て大槌に着いたのは、まだ太陽が昇る少し前でした。大槌出身の私たちの仲間でコーディネーターのもちにゃんが、私たちを「つどい」の事務所に連れて行ってくれました。そこで、私たちは顔を洗い、大槌のアマチュアの写真家である伊藤陽子さんに会いました。まず、伊藤さんに、被災者の視点からの地震と津波の災害が起きる前と災害が起こっている間の大槌のドキュメンタリー動画を見せてもらいました。伊藤陽子さんによって撮られたこれらの詳細な動画と写真によって、私たちはみんな、大槌町で実際に起きたことを理解し始めました。大槌町は、地元の経済が商業漁業に基づいており、その地域の他の部分は太平洋に取り囲まれている、山の中腹に位置する小さな町です。伊藤陽子さんの説明はまた、私たちの共感を喚起し、災害でほとんどすべてを失いながらも、なおここに留まることを決めた大槌町の被災者の姿を強く印象付けました。

次に、伊藤さんは大槌町の小ツアーに私たちを連れて行ってくれて、災害後に何もなくなった町を見せてくれました。そこは、伊藤陽子さんと他の大槌の人々の記憶が残るあらゆる場所でした。災害は彼女の町、家族、隣人たちを壊滅させましたが、伊藤陽子さんはずっと勇気を示して、彼女の人生に感謝しています。その姿勢に私はいささか自分が恥ずかしくなりました。

小ツアーの後、おおつちおばちゃんくらぶの方々と一緒に、私たちは鮭の人形を作る「シェイク・ハンド」に参加しました。質素な鮭の人形をきらびやかにするのは、多くの創造性が求められますが、みんな自分たちの能力を発揮して楽しみました。その結果、参加者みんなによって作られたたくさんのユニークな鮭の人形ができました。その日の残りは、災害後に大槌で開いているたった一軒の複合商業施設であるMASTでの翌日の展示の準備をし、私たちが宿泊する青少年センターに向けて出発して、終わりました。



2017年2月4日

朝、女性たちが調理してくれたユース・センターの朝食によって、インドネシアの留学生たちは納豆ごはんを食べることにトライする経験をしました。納豆ごはんは、インドネシアの留学生の舌には、信じられないほど強烈な味がしました。次に、私たちは展示のための MAST に行って、ポーポキになぞらえて「耳」と「しっぽ」をつけました。展示では、私たちは MAST を訪れる人々に、ポーポキ友情物語の布に絵を描いてもらおうとしました。私たちが大槌の人々をサポートするメッセージや絵やその地域で起こった災害についてのそれぞれの話を含む他の国や地域の他の布を訪問者に見せたように、布は他のポーポキ・プログラムにおいてどこかで見ることもできるでしょう。ポーポキの布は、人々がときには語ることもない心情や、または災害地域の外の人々が大きな災害などの被災者や当事者に対して、彼ら自身の気持ちを伝えるのに役に立つツールです。

また、展示の間、マストには元気（健康）体操とハンドベルのコンサートなどのイベントがありました。驚くほどに、彼女たちは生き生きとしていて、ハンドベルによって彼女たちが生み出す音色は本当にステキですばらしいものでした。彼女たちの健康でいたいという精神は、私たち若い者も見習うべきものでした。



2017年2月5日

この展示の最終日は日曜日でした。大槌町の近くで他の文化イベントがあることや、大槌町が雨になるという天気予報のため、私たちの中には、訪問者があまり MAST に来ないかもしれないと心配する者もありました。私たちは、ずっとにこにこして、MAST に来る人に私たちのイベントに参加してもらえようがんばりました。その結果、私たちは、布の全てを MAST のたくさんの人たちと一緒に小さな女の子たちや小さな男の子たちのメッセージや絵でいっぱいにすることができました。この展示から私たちは、多くの新しい経験をすることができました。メッセージを描いたり、書いたりしながら、私たちは、彼らの話や彼らの経験したことを聞き、ボランティアにきている神戸大学の学生や先生たち、ろにゃん、さとにゃんと大槌で一緒に活動してきた人々や、もっと多くの人々が示してくれた絆についてもまた聞いて知ることができました。すべてのことが、私たちがキャンパスでは得ることのできない教訓でした。私たちは、このプログラムの参加を通して経験したことに、本当に感謝しています。



ろにゃん

私は大槌町が好き。つなみの前の大槌町は知らないし、今の大槌町はまだ「町」にはなっていない。でも、その大槌町が好きです。なぜ？まずは大槌町の人々です。けれど、それだけではなく、空気も緑も海も雰囲気も気持ちも好き。ろにゃんもポーポキもあるがまさにできる場所だからかもしれない。行く前は準備が大変だけれど、向かい始めるとなんだか心がおだやかになります。私にとっての大槌町は、災害について学ぶ場所ではありますが、それよりは生き方というか心について学ぶ場所だと思います。自分の心も相手の心も、いる間に目に見えて変わっていくポーポキの友だちたちの心も。だから、私は大槌町のみなさんに感謝しています。

今年の展示活動をしていて、驚くこともうれしいこともたくさんありました。たとえば、多くの日本人は外国人を見ると無意識に引いてしまうことが多いです。でも、展示会場であるおばあさんが自分から進んで、留学生の手をとりながら一生懸命に話かけている姿を見て、思わず涙ぐみました。暖かい！学生もうれしそうでした。人を受け入れることって、こういうことですね。

今年の展示活動でもう一つ、心に残ったことは「ありがとう」という言葉です。今回は、たくさんの「ありがとう」をいただきました。以前からポーポキの友だちになっている人も新しく友だちになった人もみんな、それぞれの言葉や行動で「ありがとう」をプレゼントしてくださいました。震災から 6 年も経ち、被災地に対する関心が薄れていることは神戸にいて感じることです。支援に行く人も減ってきたかもしれません。忘れている人もいるかもしれません。大槌町の人々は、それを見ているかもしれません。

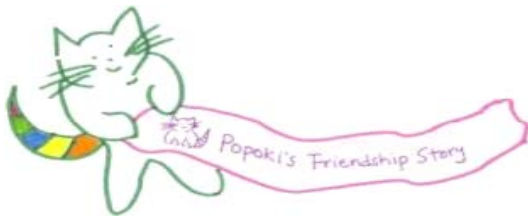
私にとって、ポーポキ友情物語活動が大槌町で行う目的は大槌町のみなさんの笑顔づくりやあるがままの自分を表現できる場所づくり、津波が残したさまざまな傷跡について学び、防災につないでいくことだと思っています。若い人、特に留学生を連れっていく重要性は、行くたびに再確認します。天災も人災も世界中のどこでも起こりうることです。被災者になるかもしれないし、被災者を支援する立場になるかもしれません。そして、災害じゃなくても、人生にはいろいろな「災難」が起こります。大槌町の人々との出会いが若い皆にゃんの心に残り、必要な時に役立ててくればうれしいです。

ポーポキ友情物語活動を始めるにあたって、「持続性」を大切にすると告げました。しかし、それはいつまで続けるべきだろうと考えることもあります。とくに、今回の大槌の前に、来年度の助成金申請や被災地支援金の減少などに直面していたから真剣にこの活動の終わりの時期を考えました。同時に 1 月 17 日に神戸の震災を思いだしながら一人で涙を流した自分をふりかえたりしながら思っていました。復興は時間ではかるものではありません。

今回の大槌町で一つの答えを見つけました。ポーポキは、足を運び続けます。感謝されるからでも笑顔で迎えてくれるからでもありません。もちろん、それはとてもうれしいです。でも、ポーポキは通い続けるのは、まだまだ友だちになっていない人がいるからです。3月になるとしんどくなる人は大勢いると思いますが、一人でも、静かにそばに座ってくれるポーポキを必要としている限り、ポーポキは通います。震災前の大槌町を知らないポーポキですが、みなさんが新しい大槌町をつくっていくのにこれからも一緒にさせていただきます。にゃんの役に立たないのかもしれないにゃいけれど。

これからもよろしくお願いします。





Popoki's Interview

やこにゃん

話し手：伊藤陽子さん（写真家）

聞き手：やこにゃん、プトリニャン

Q：伊藤さんが初めて写真を撮られたのはいつなのでしょう。

A：私が初めて写真を撮ったのは小学生のときです。海の方の防潮林のところで弟の写真を撮りました。震災が地形を変えてしまって、その場所は今はあとかたもないけれど。

初めて写真を撮って以来今までずっと、写真を撮ることは私の生活の一部です。私は写真について専門的な知識を持っているわけでもなく、写真について習ったわけでもない。だけど、ただ本当に写真が好きで、写真を撮り続けています。

なので、東日本大震災と津波を自然に撮っていました。写真集を出すつもりなんてなかったんです。

Q：どのような経緯で、伊藤さんは写真集を出されることになったのですか。

A：震災・津波で避難してきたたくさんの大槌の人たちは、そのときの大槌がどのようなかを知ることができないまま避難してきました。人々は大槌の町で何が起こったかを知りたがっていました。それで、私は避難所で写真展を行ったのです。大きな反響があって、大槌でも他の場所でも写真展をやってほしいという人がたくさんいました。大槌の人たちや写真展を見に来たいけど見に来られない、大槌を知りたい人たちのために、私は写真集を出版することにしました。

大勢の人が、その写真が東日本大震災の写真だということを知っています。けれども、その写真の場所が大槌だということは知らないのです。私は「これは大槌という町で起こったことなのだ」ということを分かってもらいたいのです。

私たちは最終日にこの会話をしたのですが、伊藤陽子さんは初日に私たちに以下のメッセージを伝えてくれていました。一つは、「大槌を直接見て、聞いてほしい」ということ。もう一つは、「災害時でもそうでないときでも、顔つなぎが大切です。知っている、助け合っているということが、いざというときに生きてくる」ということです。

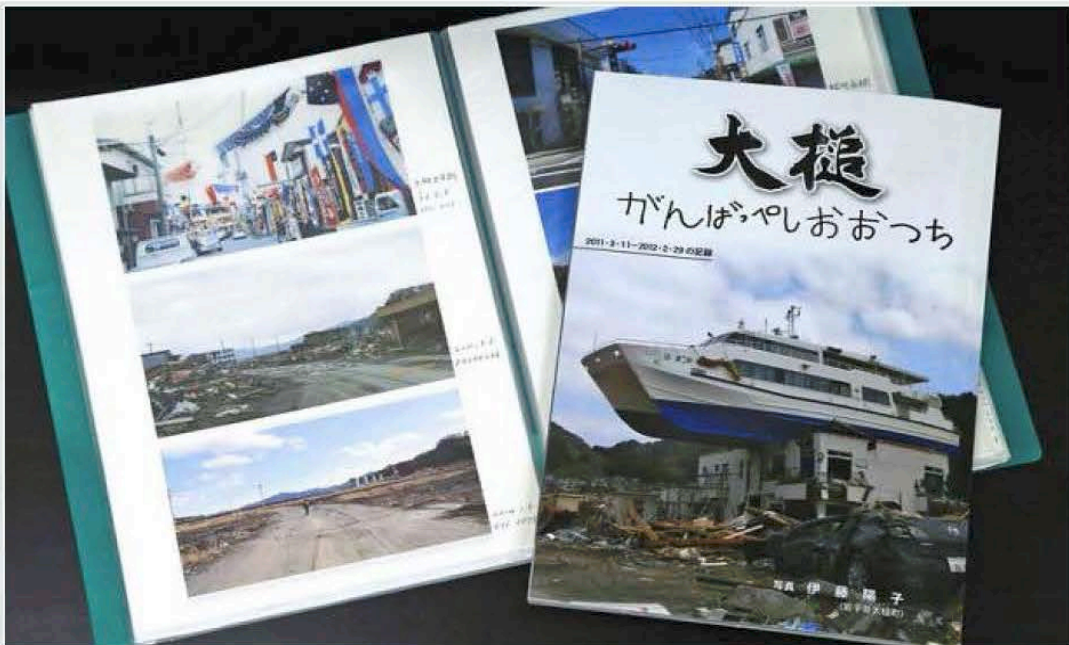
私たちは伊藤陽子さんとお話しをして、楽しくそして考えさせられる貴重な時間を過ごすことが出来ました。私たちにとっても、大槌が特別な場所になったと感じています。本当にありがとうございました。



(←この写真はやこにゃん撮影)



震災前から町の写真を撮り続けている伊藤陽子さん＝岩手県大槌町の旧役場庁舎前で（榎戸直紀撮影）



伊藤陽子さんの撮影ファイルと写真集（右）

岩手県大槌町のアマチュア写真家伊藤陽子さん（66）は、東日本大震災で被災した古里の風景を撮り続けている。千二百人を超える死者・行方不明者を出した町の「惨状を知って」と始

<http://www.chunichi.co.jp/article/front/list/CK2017030802000251.html>[2017/03/09 10:57:38]

めた写真展は、米国やドイツを含め国内外の六十六カ所に及ぶ。今、レンズを向けるのは、すっかり更地になり、変わっていく町の姿だ。

道路に商店、線路…。小学六年の時に小遣いをためてカメラを買って以来、伊藤さんは習慣のように、何げない近所の風景を撮ってきた。

二〇一一年三月の津波で、兄、母親と三人で暮らしていた自宅を流されたが、行方不明になった兄を捜しながら町にレンズを向け続けた。火事で溶けた信号機や民宿に乗り上げた高速観光船、車とがれきに埋もれた校庭など、ありのままを収めた。

「町に黒や灰色しかなくてね。カラーなのに白黒写真みたいだった」。半年後、兄が遺体で見つかり、パーキンソン病だった母も後を追うように亡くなった。

大槌町は震災で町へ入る道路が寸断され、「大きな被害を受けたのに知られていない」との思いが募った。意を決し、一一年十月に盛岡市で写真展を開いた。ちょうどその頃、伊藤さんに初めて町を案内してもらったという神戸大大学院国際協力研究科のロニー・アレキサンダー教授（60）は、散乱するがれきを前に「町があったことを想像しようと思っても分からない自分に、写真を見せながら一生懸命説明してくれた。ものすごく大槌町を愛している人」と振り返る。

伊藤さんは一二年三月に六百七十点の作品をまとめた写真集「がんばっぺしおおつち」を自費出版。アレキサンダー教授の招きで一五年六月には神戸市でも写真展を開いた。

地震と津波で白黒になった街で、伊藤さんの目に焼き付いて離れない「色彩」がある。震災から一年後の一二年三月、車の運転中にはっと気づいた。雨にぬれたヤエザクラの花びらが歩道に落ち、ピンクのじゅうたんが広がっていた。

「あら、色がある!」。伊藤さんは車を止め、夢中でシャッターを切ったという。今年も再び、三月十一日とヤエザクラの季節が巡ってくる。

（督あかり）

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 106

今月のテーマは、 バランス！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、片足で立ち、手を頭の上にあげましょう。バランスをとりながら手をたたきましょう。腕の幅をどんどん広げてみても良いですね。終わったら反対の足で立って、もう一度しましょう。
 3. 次は、片足で立ちながら、手を背中の方でたたきましょう！足を入れ替えるのを忘れないでね！
 4. 今度は、手を横へ広げてからたたきましょう。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間

練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会：4月19日 19:00～ 灘薬剤師会事務所！！！！

NEW!!! 灘区深田町4丁目1-1 JR 六甲道駅南ウェルブ六甲 2番街6階

JR 六甲道から歩いて数分

- 2017年4月7日 ポーポキ in 大槌町報告会 19:00～ 神戸学生青年センター（阪急六甲駅から徒歩数分）詳しくは次頁をご参照ください。
- 5月13日 ポーポキミニ平和映画祭 神戸YMCA/神戸YWCAと一緒に！
- 場所は神戸YMCAの新しい会館！この日は会館のオープンハウスです！14:00～16:00
- 7月2日 ポーポキ at 灘チャレンジ！

ポーポキの友だちから

- 神戸学生青年センター古本市(3月15日～5月15日)！！！！本をください！！！！集めるもの：ジャンルは問いません。CD、DVDもOKです（コピーものは不可）。ただ、雑誌、百科事典、文学全集（個人全集はOK）は、お断りしています。■期間：2013年3月1日～31日。■送り先：〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878。（ご持参いただくか、送付ください。送料はご負担ください。）
- New! 『3.11避難者の声～当事者自身がアーカイブ～』東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream 編 入手方法はsandori2014@gmail.comへ。



大槌町活動報告会

Report meeting on Otsuchi activities

ポーポキ・ピース・プロジェクトは、2005 年より身体と感性と想像力を使って平和を創造する活動をしている団体です。2011 年からは、岩手県大槌町を訪れて「友情物語」という活動を行っています。

このたびは2017 年2 月3 日から2 月5 日までの3 日間滞在させていただいた大槌町での活動報告会を行います。大槌町のことやポーポキの活動について話し合えればと思います。ご興味がありましたら、どうぞお越しいただければ幸いです。

Popoki Peace Project is an organization emphasizing use of the body, senses, and imagination in creating peace through workshops and other activities from 2005. Since 2011, we have visited Otsuchi-cho, Iwate Prefecture and done activities of Popoki Friendship Story.

Between 3 and 5 February this year we stayed at Otsuchi-cho and did activities. We will report about these activities in Otsuchi. We are looking forward to telling and talking about Otsuchi-cho and Popoki activities. If you are interested in our activities, you are welcome to join us at our report meeting on Otsuchi activities!

日時：2017 年4 月7 日（金） 19:00～21:00

場所：学生青年センター

（神戸市灘区山田町 3-1-1 tel.078-851-2760）

参加費：無料

言語：日本語/英語（通訳あり）

主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト

（お問い合わせ・お申込み/ Information and Reservation ronniandpopoki@gmail.com）

会場地図 MAP



Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange

<http://www.interpeople.or.jp>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！<http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』（貝原加奈 2014.4.25 28面）
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』（2013.8.23 朝刊 地域経済 8面）
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』（2013.8.7 朝刊 22面）
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』（2013.2.16 夕刊 4面）
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29（「今、平和を語る」、夕刊、1面）
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの』（連載）とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243（関西外大通信）
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6（北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」）「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」（斎藤雅志）神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk33web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10





私にとってのポーポキ

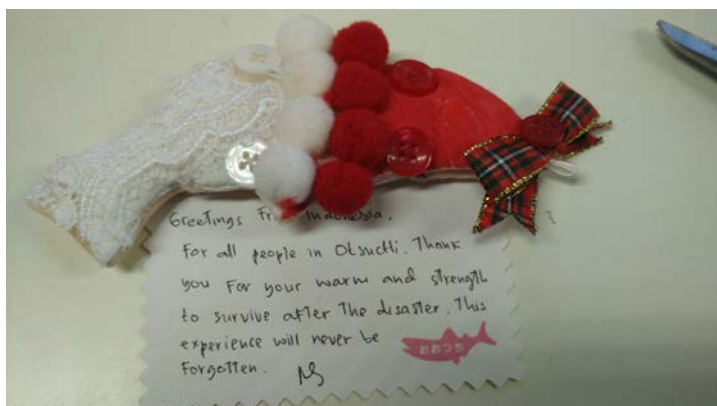
レイザニャン

私が初めてポーポキ友情物語活動について聞いたのは、アレキサンダー先生のゼミに参加している二人の友達からでした。彼女たちの話によると、ポーポキ友情物語活動は、アレキサンダー先生の飼っていた猫のポーポキが主人公のボランティア団体のポーポキ・ピース・プロジェクトが行う防災関係のボランティア活動だということでした。私は人道主義に積極的に関与するボランティアにいつも強く惹きつけられていたので、この話にとっても興味を持ちました。さらに、私がポーポキのミーティングに参加したときには、私たちの体を使って、団結（一つであること）と分離（ばらばらであること）を説明するロール・プレイを行ったのですが、とてもユニークで驚きました。ポーポキメンバー全員がとても温かく、私たちを歓迎してくれます。日本語を話せないインドネシアの学生がミーティングに参加するため、ロニャン先生はミーティングで決められているすべてことを英訳しなくてはならず、たいへんなのです。

2017年2月3日から5日に大槌町の訪問に参加して、私は震災後のプログラムにおけるポーポキの活動について多くのことを学びました。ポーポキは私の心をとても温かくします。私たちの行う活動は、大槌町の震災で被害を受けたあらゆる人々にポーポキの温かさを与えようと努めています。東日本大震災が起こったのは2011年ですが、2017年になっても、私たちはずっと震災について思い出します。さらに、ポーポキはまたユニークさとかかわいさで子どもたちに大人気です。ポーポキは猫の形をしているので、子どもたちがすすんで気にかけるのです。大槌町での活動の間も、ポーポキはたくさんの子どもたちの心をつかみました。子どもたちは、布へのお絵描きをとても楽しみ、私たちに笑いかけ、また、私たちと一緒におしゃべりをしてくれました。

そして、大槌町でのあらゆる瞬間が意義深いものでした。ポーポキは、私たちに、友情、共感、勇気、愛、楽観、承認について、また、ポーポキの活動に今まで参加して貢献してくれた全ての人々に温かさをもたらしたようなその他の感情について、私たちに多くを学ばせてくれました。願わくは、ポーポキの温かな活動が、このようないくぶん冷たい生活の中でこのような温かい気持ちを必要としているあらゆる人々に広がっていきますように。

（これは大槌町でおおつちおばちゃんくらぶの方々の「シェイク・ハンド」に参加して私が作った鮭の人形です。インドネシアの国旗の赤と白を表しています。うん、私はインドネシアが大好きみたいです！）



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なりたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!